

北海道の印刷

PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

第 725 号

[Website] <http://www.print.or.jp>

[E-mail] info@print.or.jp

10

2016

平成28年
10月10日発行

INDEX

| | |
|------------------------------------|-------|
| 印刷燦燦 | 3 |
| HOPE2016が盛大に開催 | 4・5 |
| HOPE2016基調講演 | 6・7 |
| HOPE2016セミナー | 8・9 |
| 第10回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション作品募集 | 10・11 |
| MUD教育検定3級受検案内 | 12 |
| 「リコージャパン POD seminar in SAPPORO」案内 | 13 |
| 北海道最低賃金が改定 | 13 |
| 「PODメーカー4社見学会&プレゼンテーションバスツアー」案内 | 13 |
| 平成28年度DTP技能検定受検案内 | 14 |
| 「FFGS drupa 2016 Seminar」開催 | 14 |
| 業務改善助成金交付要件改正 | 15 |
| 業界のうごき | 15 |

《表紙》霧多布湿原 [厚岸道立自然公園] 厚岸郡浜中町 (10月)

北海道印刷工業組合

〒062-0003 札幌市豊平区美園3条5丁目1番15号 原ビル
TEL.011-595-8071/FAX.011-595-8072



この印刷物は、CSRに
取り組む印刷会社が製作
した印刷物です。

P-00023

印刷 燦 燦

もう一度

NHK朝の連続テレビ小説をご覧になっている方は多いと思います。

私も毎回楽しみにしている一人ですが、視聴率が20%を超えていることでも、人気の高さが感じられます。ここ何年間、戦前、戦中、戦後の日本の時代を映し出し、その時代を生きてきた人々にとっては懐かしさもあるのでしょう。

今は、当時よりは格段に豊かな時代となっていますが、果たしてそうなのでしょう。誰もが情報の発信者となり、受け手も溢れんばかりの情報の洪水の中から選択に追われていることもあるように思われます。

今まで当たり前だったビジネスモデルが、社会のニーズに合わなくなり、その狭間で四苦八苦されている方も多いことでしょう。居酒屋にしても昔の昭和初期の時代を思わせる雰囲気のお店が逆に新しさを感じさせ、人気を呼び、大部屋から個室がもてはやされるようになり、改装する店舗を見かけることが多くなってきています。時代を先取りすることは難しいが、きっとその兆しは今の生活の動きの中にあるのでしょう。

今から27年程前になりますが、東京のとあるスナックのカウンターで、アメリカ人と隣席になったことがありました。私の下手な日本語混じりの英語で、今、アメリカでは何が流行っているかを尋ねたら、メールだと言われました。

私は「メール=手紙」という短絡的な発想しかできず、文通?が流行る・・・とは良く理解が出来ませんでした。誰でもがみ~んな使っていて大変便利なんだとのこと。

私は、当時それがどれほどの利用価値があるのか知ることも出来ませんでした。まさに当時のアメリカは、日本の10年先を走っていたのかも知れません。

今やメールは音楽データのやり取りから画像などを含め、私達の時間と距離と費用を多いに縮小させる、無くてはならないツールになっています。

3Dプリンターが活躍し、ロボットが身近な存在になり、車も自動運転で走る時代に、紙のメディアは何処へいくのでしょうか?

もう一度あのアメリカ人に会ってみたいものです。

北海道印刷工業組合理事 藤澤利光

株式会社北海印刷 代表取締役

HOPE2016が盛大に開催

「学び」と「情報発信」の場で、未来を探求

北海道印刷工業組合と関連4団体で構成するHOPE実行委員会が主催するHOPE (HOKKAIDO PRINT EXPO)2016が、9月2日・3日の2日間、札幌市白石区のアクセスサッポロで開催され、展示会に1,930人、セミナーに704人、合計2,634人の入場者があった。

HOPE2016は、展示会とセミナーの併催で行われ、展示会は43社77小間が出展し、セミナーは実行委員会主催の基調講演とパネルディスカッションおよび9社11セッションの出展社企画セミナーの13セミナーが行われた。

開会式が、9月2日午前9時30分から来賓・出展者など多数が出席して開催された。



板倉 清
HOPE実行委員会
会長

最初に、主催者を代表して板倉 清 HOPE実行委員会会長（北海道印刷工業組合理事長）が、「新たな挑戦として取り組んだ『HOKKAIDO PRINT EXPO』の第1回が、今日、明日の2日間、43社77小間の出展ならびに9社11セッションの出展社企画セミナーと実行委員会主催の2セミナーを加え、13セッションのセミナー

で開催の運びとなった。『HOPE』は、『学び』と『情報発信』の場として位置づけしている。出展・出講いただいた印刷・情報機器、資材メーカー、販売会社の皆さんなど、多くの関係各位の理解と協力に、改めて心から厚くお礼申し上げます。道内の印刷産業を取り巻く環境は、政府の経済政策の恩恵がなかなか実感できなく、人口減少などによる社会環境の変化、需要構造の変化によるペーパーメディアの流出、業際化など様相は一変しており、これまで経験したことない大きな変化への対応が迫られている。一方、私どものお客様も同じようにビジネスの展開に多くの課題を持ち、その解決策を求めている。私ども、印刷産業に携わる者は、その課題を共有し、解決策を提供する新しいビジネスモデルを構築することが、社会から必要とされる企業の条件と考えられる。それが、全印工連が、勝ち残りの方策として提唱している『ソリューション・プロバイダーへの深化』である。ソリューション・プロバイダーとして、社会の要求に応えるビジネスを推し進めるためには、自社の設備や技術を向上させることはもとよりであるが、同業者・関連業者・隣接異業種とのコラボレーションを積極的に展開することも勝ち残るための1つの方策である。さらに、先進事例、経営・技術環境の動向や、お客様からの要望・印刷業界への目線などを学び、自社の成長指針を見出すこ

とは、勝ち残りの絶対条件となることは自明の理である。『HOPE2016』は、これらの要求に応える十分な『情報発信』と『学び』のプログラムを兼ね備えていると自信を持って言える。『HOPE2016』が、道内印刷関連業の将来を展望し、企業経営の価値を見出し、クロスメディア推進に必要な印刷関連資機材・情報機器等の選択、情報の交換、ソリューションビジネスを構築する絶好の機会であり、ICT時代の道内印刷関連業の原動力となり、ひいては印刷業界全体の発展に繋がると確信している」と述べた。

次に、来賓紹介が行われ、代表して4人から祝辞が述べられた。



中野 健
経済産業省北海道経済産業局
地域経済部次長

中野 健 経済産業省北海道経済産業局地域経済部次長は、「歴史ある北海道情報・印刷産業展が装いを新たにHOPEとして開催されるわけだが、印刷関連業界を取り巻く環境が大きく変化するなか誠に時宜を得た取り組みである。先日、サービスイノベーションをテーマにしたシンポジウムに出席し、そこでベストプラクティスとされる老舗旅館の事例について話を聞く機会があった。小規模な旅館が経営危機に陥って、創業者が病に伏せてしまい、サラリーマンをしていた息子さんが急遽、経営を引き継ぎ苦勞をされた話であった。2代目の社長がICTを活用して、内部の業務を徹底的に効率化して、そこで出てきた余力をフロントのお客様対応に注力しておもてなしを向上し、顧客満足度を大幅にアップして旅館を再生したという話であった。驚いたのはその際に自社で開発したシステム、経営再生のノウハウを活用して他のホテルや旅館のコンサル業務を開始し、それが今や事業の大きな柱となり、全国のホテル旅館180余の施設にシステムを導入しているという話であった。HOPEの今回のテーマがソリューション・プロバイダーへの深化ということで、私自身、具体的なイメージにいろいろ思いを馳せていたが、紹介した旅館の取り組みと相通じるものがあるのかと感じている。自社、本業の生産性の向上、イノベーションを実現すると同時に取引先あるいは顧客の課題解決に貢献するというではないかと自分と

しては理解している。また、最近、新聞で見たが新潟県のものづくり企業がデジタル印刷機の市場に参入する、千葉県の印刷機メーカーがIoTの活用に取り組みを始めたなど、確実に業界においても挑戦が始まっていると感じている。北海道においても是非、このHOPE、イベントを契機に新たな挑戦、新たなビジネスが数多く生まれることを期待する」と述べた。



三橋 剛
北海道経済部産業振興局
産業振興課長

三橋 剛 北海道経済部産業振興局産業振興課長は、「私どもは製造業の振興を担当している。そのなかで国が第4次産業革命あるいはIoT、こういった分野の振興を日本再興戦略のなかで強く打ち出している。北海道においても、例えば自動車分野だと、自動走行のテストコースのなかでの実証試験が既に始まっていたり、スマート農業、スマート水産業といわれる分野においてもホタテ貝の自動殻剥き機、ITを使った省力化機械の実用化の動きも出てきている。ビッグデータの分野においては健康管理のデータを活用した個別の健康診断、健康アドバイスというような実証試験が自治体と組んで道内でも始まっている。こういったかたちで第4次産業革命の動きが道内で出てきている。私どもも時代の変革に対応して変革しているところはチャンスだと考えているので、一生懸命、製造業の振興に努めていきたいと考えている。そうしたなかで印刷業界の方々には、IT化により大きな変化の局面を迎えている。そのようななか、平成5年から開催されていた北海道情報・印刷産業展を新たにHOPEとして展示とセミナーを組み合わせた学びと情報発信の場として装いを新たに開催されることは、時代の変化に対応して印刷業界の方々新しい取り組みを正にされるところだと私どもは感じており、大変意義深いと考えている」と述べた。



奥村彰大
札幌市経済観光局産業振興部
立地促進・ものづくり産業課長

奥村彰大 札幌市経済観光局産業振興部立地促進・ものづくり産業課長は、「北海道内の印刷業界のハード・ソフト面の最新の技術に関係者のもとより市民の皆さんに広く紹介する絶好の機会と思っている。札幌市の製造業に目を向けてみると、印刷業は、食品製造業に次いで第2位の出荷額で札幌市の主要産業と認識している。こうしたイベントをきっかけにし、印刷業の企業の方々方が今後ますます経済活動、企業活動を発展をさせていくことを心から期待している。札幌市では地域的な経済対策、産業振興の方向性を定めるものとして平成23年度に札幌市の産業振興ビジョンを策定した。今から5年前を思い出すとリーマンショック後ということで市場に雇用の場をどう確保するか、働きたい人はいるがそれに見合う雇用の場を確保す



ることができない状況であった。それから僅か5年が経過して、世の中、人手不足という言葉が躍るようなそんな時代に急激に変わってきている。私どもは、このような社会経済情勢の変化に対応するために、現在、ビジョンの見直しを進めている。人口減少問題に対応した道内経済の縮小にどう対応していくのか、若年層が道外に流出していくのをどう食い止めることができるのか、企業の皆さんが人手をどう確保していくのか、どう人材を育成させていくのか、どう支援をしていけるのかなどを問題意識を持ちながら北海道経済産業局、北海道と連携を取りながら、関係する皆さんの意見もしっかり頂戴しながら、今後どのような施策を打っていくべきかをしっかり考えていきたい」と述べた。



白田真人
全日本印刷工業組合連合
会長

白田真人 全日本印刷工業組合連合会会長は、「先ずは今回の台風10号で、大変な被害を受けられた皆さんに心よりお見舞い申し上げます。このような打って変わる晴天のなか盛大に新たなHOPEが開催されることを心よりお慶びを申し上げます。以前の情報機材展から装いを新たに、出展社の皆さん、各種セミナーの講師、パネラーの皆さんの協力のもとに、今回は学びの場として、テーマをソリューション・プロバイダーへの深化ということで、私ども全印工連が2013年から提唱しているソリューション・プロバイダーの方向性、さまざまな学びの場、各種セミナーが用意されていると伺っている。是非とも来場の皆さんが、その場におかれ、さまざまなビジネスモデル、ビジネスオポチュニティをしっかりと摘み取っていただき、それぞれの企業はもとより印刷産業の発展に寄与していただきたいと心より期待している」と述べた。

次に、来賓の中野 健 経済産業省北海道経済産業局地域経済部次長、三橋 剛 北海道経済部産業振興局産業振興課長、奥村彰大 札幌市経済観光局産業振興部立地促進・ものづくり産業課長、白田真人 全日本印刷工業組合連合会会長、板倉 清 HOPE実行委員会会長によるテープカットが行われ、開幕した。

プロダクトに繋げるスタイルを 印刷産業のなかに定着

HOPE2016基調講演で臼田全印工連会長が熱く語る

HOPE2016基調講演が、9月2日午前10時30分から、札幌市白石区のアクセスサッポロで、全日本印刷工業組合連合会会長の臼田真人氏を講師に迎え、「印刷業に求められる価値の変化」をテーマに約120人が参加して開催された。

臼 田講師は、最初に全印工連の組織と活動について説明し、全国の仲間から臼田さんの(株)アドピアはどんな特許、技術、商材、競争力があるのかとよく聞かれるが、実は何も持っていない。中小企業の経営はどんなかたちが良いかは、社員のさらなるトライ、チャレンジで喜びを共有しているかにあるとした。

次に、印刷産業の過去から現在に至るまでの状況について解説し、「38%減」をキーワードに、日本の印刷産業の出荷額が1991年に8兆9千億円、1997年に8兆8千億円とピークを迎え、2016年は5兆5千億円と約40%減少している。

さらに「12%減」をキーワードに、国内の15～65歳までの労働生産人口が1991年に8,650万人であったが、今は7,600万人まで減っている。

世界中で印刷業の出荷額は、その国のGDPに連動するといわれている。経済成長すると情報、製品が増える。日本はGDP2%で推移させたいと国は考えているが、できていなく、ほぼ0%である。これは近代型経営モデルの終焉である。

印刷産業は、グーテンベルグの発明した印刷機以降、発展したと言われている。これは産業革命が起き、人口が増え、経済が向上し、物流が必要になった結果



である。

日本の印刷業の発展モデルは戦後である。物流が増え、人が増え、第1次ベビーブームが生まれ、市場が自然に増えていった。それによりさまざまな印刷物が増えていき、マスプロダクト（大量生産）の世界に入った。

1991年、1997年をピークに、その後、大量生産は成り立たないという時代に入った。今は人口が減少している。札幌市は190万人で増えているが地方は過疎化が進んでいる。これは北海道だけでなく全国で同じ状況である。

人口が減り、商業が下火になり、情報用紙・印刷物が減っていく。近代型のマスプロダクトは終わり

ある。

生産人口が減り、労働力不足になる。印刷産業に限ったことではなく、国全体の問題である。高齢社会に入っていて、介護の問題が発生し、企業としてもどう取り組むかが課題となっている。

マーケットが縮小しているという話をすると暗くなるが、「マスカスタマイゼーション」の考え方がある。

マスプロダクトの時代は終わった。大量生産、大量消費、安売りのアメリカ型の市場経済は日本ではとくに無くなっている。

マスカスタマイゼーションは、個別対応である。お客様の要望にとことん対応していくスタイルである。

印刷業は、今まで自社の設備で生産できるものを営業してきた。これからは、お客様に合わせて、お客様の異なる要望に応じていくことが求められる。

私たちの扱う製品は汎用性があり過ぎ、強みが良く分からない。自社の強みを炙り出した上で、お客様の要望である課題、悩み、面倒くさいと思っていることすべてに対応していく。それがマスカスタマイゼーションである。ただし、1点1点、お客様1人1人の要望を聞くことがマスカスタマイゼーションであるが、それでは商売として成り立たない。

私たちは、製造を持ってここまでやってきた。印刷産業としてはお客様の細やかな要望を聞いた上で、それをプロダクトしていく。できればそのモデルを横展開して、結果として生産ラインに載せていかないとお金にならない。

アメリカではWEB制作会社は成り立たない。WEBだけでは儲からない。ものづくりが必ずセットでないと利益の源泉に手が届かない。お客様の求められるものに対し、しっかり応えるが、そこには必ずプロダクトに繋げるスタイルを印刷産業のなかに定着させていきたいと訴えた。



つづいて、臼田氏自身が経営する(株)アドピアの営業内容、人材育成、業態変革への取り組みなどを熱く語った。

最後に、臼田氏が経営者として感じている思いを次のように話された。

- ①人材の確保・育成は、中小企業の要である。
 - ②積極的にIT戦略を取り入れる。業務改善を進めていくと、人の力だけではできないことがある。それをIT、IOTで効率化できるようにする。
 - ③顧客接点の強化・開発は、強みをしっかり把握する。印刷会社は強みを持っている。しかし、それに気づいていない。
 - ④永続的な業務改善が必要である。社員と一緒に共通目標を掲げて、社員が自ら率先して、自分たちの職場環境を良くしていく。それは自分のためである。自分たちが自分たちの仕事を通じて、自分たちの関わるすべての人を幸せにしよう。これがすべてである。それが自分たちの達成感に繋がっていく。これらは、口で言うのは簡単であるが、実際にやってみると、さまざまな課題、壁が出てくる。それを乗り越えないと次の景色が見えて来ない。
- 印刷工業組合は、このような同様の悩み、課題を持った経営者が多くいるので、一緒に勉強させていただきたいと結んだ。

HOPE2016セミナー

HOPE2016セミナーが、9月2日・3日の2日間、札幌市白石区のアクセスサッポロで、実行委員会主催の基調講演、パネルディスカッションと9社11セッションの出展社企画セミナーが、700人を超える受講者が参加して開催された。

セミナーを写真グラフで紹介する。

9月2日(金)

基調講演



- ① 提供会社 HOPE実行委員会
- ② テーマ 印刷業に求められる価値の変化
- ③ 講師 全日本印刷工業組合連合会 会長 白田 真人氏

セミナー①



- ① 提供会社 リコージャパン株式会社
- ② テーマ 儲け続ける印刷会社になるために
- ③ スピーカー brain.design 代表 佐々木雅志氏
コメンテーター 株式会社新藤コーポレーション COO 田畑 晴基氏
清水印刷株式会社 代表取締役 清水 雅司氏
株式会社光陽メディア 取締役 大塚美世子氏

セミナー②



- ① 提供会社 富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社
- ② テーマ ポストプレスソリューションセミナー
- ③ 講師 富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社
デジタルプレス営業部 主任 鈴木 崇之氏

セミナー③



- ① 提供会社 キヤノンマーケティングジャパン株式会社
- ② テーマ 効率化で製造コスト圧縮! 自動化を駆使したJDFワークフロー構築と生産管理の仕組み
- ③ 講師 キヤノンマーケティングジャパン株式会社
プロダクションシステム企画部プロダクションシステム
商品企画第二課 チーフ 渡邊 健一氏

セミナー④



- ① 提供会社 株式会社Too
- ② テーマ 印刷の色品質管理と標準化の動向
- ③ 講師 エックスライト社
アプリケーションエンジニア 岡松 英二氏

セミナー⑤



- ① 提供会社 ハイデル・フォーラム21北海道地区会
- ② テーマ drupa2016にみる今後の印刷ビジネスと技術トレンド
- ③ 講師 公益社団法人日本印刷技術協会
専務理事 郡司 秀明氏

セミナー⑥



- ① 提供会社 コニカミノルタジャパン株式会社
- ② テーマ 印刷ビジネス～領域拡大の可能性～
「色で変わる×色で変えられる広告効果」
- ③ 講師 COCOLOR 代表 都外川八恵氏

9月3日(土)

パネルディスカッション



- ① 提供会社 HOPE実行委員会
- ② テーマ 企業を進化・発展させる取り組み事例について
- ③ ファシリテーター 株式会社アステップ 代表取締役 中野 貴英氏
- パネリスト 株式会社プリプレス・センター 代表取締役 藤田 靖氏
- 株式会社リージョンズ 代表取締役 高岡 幸生氏
- 株式会社内池建設 代表取締役 内池 秀敏氏

セミナー⑦



- ① 提供会社 株式会社モリサワ
- ② テーマ すぐに役立つ知的財産権セミナー
「創作法務とコンプライアンス経営」
- ③ 講師 近藤総合法律事務所 所長 近藤 剛史氏

セミナー⑧



- ① 提供会社 リコージャパン株式会社
- ② テーマ カラーマネジメント
- ③ 講師 株式会社カムロックシステムズ
デジタルワークフローアドバイザー 百合 智夫氏

セミナー⑨



- ① 提供会社 富士ゼロックス株式会社
- ② テーマ 人の気持ちを知るためのユーザーモデルのご紹介
～多様な人とのコミュニケーションを効果的に実現するために～
- ③ 講師 富士ゼロックス株式会社
研究技術開発本部コミュニケーションデザインオフィス
シニアリサーチャー 小澤 一志氏

セミナー⑩



- ① 提供会社 株式会社小森コーポレーション
- ② テーマ 生産・品質・利益アップのための100点満点工場改善手法
～KPM (小森式予防保全) 成功編～
- ③ 講師 株式会社小森コーポレーション
西日本サービス部付KPMコンサルタント 川名 茂樹氏

セミナー⑪



- ① 提供会社 キヤノンマーケティングジャパン株式会社
- ② テーマ 次世代フォトプリンターが創る高付加価値ビジネス
- ③ 講師 キヤノンマーケティングジャパン株式会社
リテイルフォト企画部リテイルフォト販売企画課
課長 越山 智之氏

第10回メディア・ユニバーサルデザイン コンペティション作品募集

全日本印刷工業組合連合会は、「第10回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション」を開催する。

全日本印刷工業組合連合会は、各産業界および個々の企業の社会的責任が重要視されている現在、印刷業においてもその責任を果たすためのコンプライアンス活動が求められていることを踏まえ、すべての人に優しく、誰もが快適に利用できることを目的としたユニバーサルデザインの考え方に準じ、デザインや文字など、より多くの人に伝わる情報を提供する「メディア・ユニバーサルデザイン (MUD) 活動」に取り組んでいる。

この取り組みをより強固なものにするために、一般

社会に対してはMUD活動の意義と必要性を広くアピールし、印刷業界においては印刷技術の向上に貢献することを目指して、「メディア・ユニバーサルデザインコンペティション」を行っており、今年も「第10回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション」を開催する。

一般の方だけでなく、高齢者・障がい者や子ども、外国人などすべての人に対して優しいデザインの実現を目的とする斬新なアイデアに富んだ作品を募集している。

主催 全日本印刷工業組合連合会

後援 (順不同) 経済産業省、一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会、読売新聞社、朝日新聞社、日本経済新聞社、一般社団法人日本印刷産業連合会、一般社団法人日本プロモーション・マーケティング協会、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会、公益社団法人日本パッケージデザイン協会、日本図書設計家協会、NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構

協力 (順不同) 東洋インキ株式会社、株式会社イワタ、EIZO株式会社、株式会社モリサワ、全国印刷緑友会、一般社団法人日本グラフィックサービス工業会・SPACE21、日本青年会議所メディア印刷部会

応募期間 2016年9月1日(木)～11月30日(水)

募集作品 カレンダー・地図・パンフレット・サイン・パッケージ・チラシ・ポスター・ラベル・カードゲームなど
※既成の作品の改善提案の場合は、知的財産権への抵触に注意すること。
※特に既成の自社作品について、MUDに配慮し再制作した“before and after”の作品を広く募る。

応募資格 [一般の部] プロ・アマを問わず、どなたでも応募可能
[学生の部] 大学・短期大学・専門学校・高等学校に在学している学生・生徒

応募対象作品 2015年7月以降に制作されたもの

応募方法 作品1点とデータ1点 (CD-Rにai/eps/jpeg/pdfのいずれかの形式でアウトライン化して保存したもの) を出品申込書とともに送付する。
※入選作品に選ばれた場合、提出いただいたデータをもとに受賞作品集の制作を行う。

出品料 応募作品1点につき、一般3,000円 学生は無料

授与賞 [一般の部] 経済産業大臣賞 表彰状・賞金 …………… 100,000円
優 秀 賞 表彰状・賞金 …………… 50,000円
佳 作 表彰状・賞金 …………… 10,000円



授 与 賞 [学生の部] 経済産業大臣賞 表彰状・図書カード …… 30,000円分
優 秀 賞 表彰状・図書カード …… 10,000円分
佳 作 表彰状・図書カード …… 3,000円分

審 査 日 2017年1月(予定)

審査結果発表 審査日より1週間後 入選者にのみ入選通知書を送付

審査基準 **a**メディア・ユニバーサルの観点から、見やすさにおいて優れているもの。
b斬新な発想とアイデアにより、独自の新規性や工夫・技法が考慮されているもの。
c色彩構成だけでなく企画・デザイン・素材などの組み合わせにより、メディア・ユニバーサルの配慮がなされているもの。
dそれぞれのメディア(部門)において、実用的かつ機能的なもの。

審査委員 伊 藤 啓 (東京大学分子細胞生物学研究所脳神経回路研究分野准教授)
武者 廣 平 (NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構理事長)
土 生 英 彦 (色覚問題研究グループぱすてる事務局長)
高 橋 正 実 (MASAMI DESIGN)
橋 田 規 子 (芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科教授)
日 原 佐知夫 (創造意匠)
伊 藤 道 裕 (NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会理事長)
橋 本 博 (NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会事務局長)
三 島 秀 夫 (全日本印刷工業組合連合会CSR推進委員会委員長)
浦久保 康 裕 (全日本印刷工業組合連合会CSR推進委員会副委員長)
経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課担当官
一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会担当審査員

表 彰 式 2017年5月25日(木) アジュール竹芝(全日本印刷工業組合連合会通常総会席上)

知的財産権 (1)応募作品の知的財産権は、応募者に帰属することとする。従って、応募者は応募作品に関して、自ら適切な権利処理を行い、第三者の権利を侵害するものでないことを保証するものとする。
(2)応募作品が第三者の権利を侵害していることが判明した場合、また、類似が認められる場合は、審査対象からの除外、または授賞を取り消す場合がある。
(3)入選作品は展示・公開され、応募作品は各種の印刷媒体・ホームページ等に掲載される場合がある。また、その時に一部の変形および翻案を行う場合がある。
(4)その他、第三者による権利侵害等の紛争が生じた場合、応募者自らが解決することとし、主催者は損害賠償等の責任を一切負わないものとする。

注 意 事 項 ①応募作品およびデータは返却しない。
②作品サイズによっては、作品の保管場所や審査会場・展示会場の都合により、実物による出品の受付ができない場合がある。

作 品 応 募 先 公益社団法人日本印刷技術協会
「第10回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション」係
〒166-8539 東京都杉並区和田1-29-11 電話03-3384-3111/FAX03-3384-3481

問 い 合 せ 先 全日本印刷工業組合連合会
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館4階
電話03-3552-4571/FAX03-3552-7727

MUD教育検定3級受検のご案内

11月19日、札幌で開催

NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会は、北海道で2回目の「MUD教育検定3級」を開催する。

ひとり人が主体的に判断し、行動する成熟した社会を創造するためには、情報が公平に入手できる環境を整える必要がある。しかしながら現実的には、必要な情報が公平に伝わっているとは言えない状況にある。隅々まで情報が行き渡り、その内容を多くの人読んで理解できるようにするためにはメディア・ユニバーサルデザイン（以下MUD）の視点は欠

かせない。

MUD教育検定は、ユニバーサルデザイン（以下UD）やMUDの基礎を正しく理解し、多くの人「読める」「わかる」情報を発信することが、情報を発信する側の社会的役割であることを意識し、さらなる利便性の向上に取り組んでいくことを目的としている。

MUD教育検定3級の概要は次のとおり。

| | | | | |
|---|---|---|----------------|----------------|
| 日 | 時 | 平成28年11月19日（土） | 講習／10：00～15：50 | 試験／16：00～17：00 |
| 会 | 場 | TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前 （札幌市中央区北4条西6丁目 毎日会館 電話011-600-2615） | | |
| 科 | 目 | 色覚、文字組版の2科目 | | |
| 受 | 検 | 料 一般16,200円／学生5,400円 | | |
| 受 | 検 | 資 格 制限なし | | |
| 詳 | 細 | 申し込み NPO法人メディア・ユニバーサルデザイン協会 http://www.media-ud.org | | |

MUD教育検定3級の内容

| | |
|---|---|
| 色 覚 編 | 1.UD概論 |
| | ①UDとは何か ②UDの7原則 ③バリアフリーとUD |
| | 2.MUD総論 |
| | ①MUDとはなにか ②MUDの対象（者） |
| 3.MUD各論 | |
| ①色の見え方 ②MUD製品の作り方 ③MUDチェックリスト ④MUD検定を受けるにあたって | |
| 文 字 組 版 | 1.文字の設計と書体特性 |
| | ①文字の設計 ②書体特性 |
| | 2.文字組版 |
| | ①文字組版 ②文字サイズ ③文字と行送り ④約物 ⑤禁則処理 ⑥和欧混植 |
| 3.UD文字組版をサポートするフォント | |
| ①UDフォント ②コンデンスフォント | |

北海道印刷工業組合

メールマガジン配信登録受付中

メールマガジンの配信希望は、北海道印刷工業組合のHPから申込受付を行っています。

[URL]

<http://www.print.or.jp>

リコージャパン株式会社主催 「POD seminar in SAPPORO」のご案内

メディア・ユニバーサル・デザインを紹介

リコージャパン株式会社は、「POD seminar in SAPPORO」を、10月20日に開催する。

今回は、メディア・ユニバーサル・デザインをテーマに開催する。
2016年4月から「障害者差別解消法」が施行されている。

色覚障がいのある日本人男性は約20人に1人、北欧やフランスでは約10人に1人に及んでいる。

海外からの渡航者、高齢者、障がい者、色覚障がい者など誰もが使いやすく、見やすいメディア・ユニバーサル・デザインが今求められている。法令順守、社会貢献的役割はもちろん、商いを伸ばす効果も期待できる。

同セミナーでは、正しい情報を正しく効果的にお客様に伝える方法や事例を紹介する。

さらに、11月19日に札幌で開催されるMUD教育検定についてのワンポイントを紹介する。

| | |
|-----|---|
| 日時 | 平成28年10月20日(木) 13:30~15:00 |
| 会場 | リコージャパン株式会社 E会議室 (札幌市北区北7条西2丁目8-1 札幌北ビル14F 電話011-700-5505) |
| テーマ | メディア・ユニバーサル・デザインのご紹介 |
| 講師 | NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会 理事 阿部浩之氏 |
| 参加費 | 無 料 |
| 申込先 | リコージャパン株式会社ホームページ http://www.ricoh.co.jp/evvt/seminar/16S042.html |

北海道最低賃金が改定

平成28年10月1日改定

北海道内で事業を営む全産業の使用者及びその事業場で働くすべての労働者（臨時、パートタイマー、アルバイト等を含む）に適用される北海道最低賃金（地域別）が、次のとおり改定された。

| | | | |
|-------|---------|-------|------------|
| 最低賃金額 | 時間額786円 | 効力発生日 | 平成28年10月1日 |
|-------|---------|-------|------------|

○最低賃金には、精皆勤手当、通勤手当、家族手当、臨時に支払われる賃金および時間外等割増賃金は算入されない。

○最低賃金額以上の賃金を支払わない場合は、最低賃金法違反として処罰されることがある。

PODメーカー4社見学会&プレゼンテーションバスツアーのご案内

札幌支部（岸昌洋支部長）は、キャノンマーケティングジャパン(株)、富士ゼロックス(株)、コニカミノルタジャパン(株)、リコージャパン(株)の札幌市内のショールームを回り、最新マシンの見学とプレゼンテーションを行う「PODメーカー4社見学会&プレゼンテーションバスツアー」を開催する。終了後、サッポロビール園で懇親会を行う。

日時：平成28年11月17日(木) 見学会・プレゼンテーション／10:00~18:00
懇親会／18:20~19:50

※参加費、参加方法等詳細の問い合わせは、札幌支部（電話011-867-9305）まで。

平成28年度DTP技能検定のご案内

厚生労働省の技能検定製版職種「DTP作業」は、試験内容と実際の業務との乖離が大きかったため、平成26年度と同27年度の2年間、開催を休止していたが、このたび、全日本印刷工業組合連合会が中心となり、試験内容の検討・見直しを行い、新たな検定試験に刷新が行われた。

この新たな検定内容で、今年度（平成28年度）後期に、製版職種「DTP作業」の技能検定が実施される。DTP作業従事者の方々への教育の一環として活用でき、スキルアップにつながる。平成28年度後期に実施される製版職種「DTP作業」の主な内容は次のとおり。

【平成28年度後期技能検定製版職種「DTP作業」】

| | | | |
|--------|--|--------|---|
| 受検申請受付 | 平成28年10月3日(月)～14日(金) | | |
| 実技試験日程 | 平成29年1月28日(土) | 実技試験会場 | 北海道立札幌高等技術専門学院 (札幌市東区北27条東16丁目) |
| 学科試験日程 | 平成29年2月5日(日) | 学科試験会場 | 札幌市・旭川市・函館市・滝川市・北見市・苫小牧市・帯広市・釧路市・留萌市の指定する会場 |
| 実技試験内容 | DTPアプリケーションを使用し、提示された指定書により、支給された課題データを組版・編集し、カラープリンターにより出力する。(札幌高等技術専門学院での使用マシンはWindowsになる) | | |
| 受検区分 | 1級および2級 | 受検手数料 | 実技17,900円/学科3,100円 |
| 受検申請先 | 北海道職業能力開発協会 または各地方職業能力開発協会 | 問い合わせ先 | 北海道職業能力開発協会 または各地方職業能力開発協会 |

「FFGS drupa 2016 Seminar」 開催される

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社北海道支店（竹中知久支店長）は、「FFGS drupa 2016 Seminar」を、7月22日午後4時から、札幌市中央区の富士ゼロックス北海道セミナールームで約80人が出席して開催した。

セミナーは、同社ワークフロー事業部事業部長 渡邊 泉氏が講師を務め、第1部「drupa2016のトレンド報告と今後の方向性～出展各社の最新情報と今後の市場の方向性～」、第2部「drupa2016で注目を集めた『FUJIFILM Inkjet Technology』とFFGSソリューションの紹介」のテーマで2部構成で行われ、drupa2016全体の技術動向・トレンドについて最新情報を紹介し、同展で富士フイルムが発表した『Value from Innovation』のスローガンのもとでの「インクジェット」「省資源」の2大イノベーションを軸に、数々の新技術・ソリューションを紹介した。



業務改善助成金の交付要件が一部改正されました

中小企業の賃金と業務の改善を国が支援し、従業員の賃金引上げを図るための制度である、業務改善助成金の交付要件が、8月5日から一部変更になりました。

最低賃金が公示された日以後に賃金引上げを行う場合であって、引上げを行う労働者の賃金が公示された最低賃金を下回る場合は、公示された最低賃金から60円以上引き上げることを要件としていたところ、「公示された日」を「効力が生じた日」に改められました。

【業務改善助成金の概要】

| | | | |
|------|---|-----|---|
| 支給要件 | <p>①賃金引上げ計画 時間給800円未満の事業場内で最も低い賃金（事業場内最低賃金）で働く労働者（雇入れ後6月を経過していること）の賃金を60円引上げる計画を作成し、実施すること。</p> <p>②業務改善計画 業務改善（労働能率の増進に資する設備・器具の導入等）に係る計画を作成し、実施すること。 ※単なる経費削減のための経費、職場環境を改善するための経費、パソコン、営業車輛など社会通念上当然に必要な経費は除きます。</p> | 支給額 | <p>常時使用する労働者の数が31人以上の企業は、業務改善に要した経費の2分の1、常時使用する労働者の数が30人以下の企業は、業務改善に要した経費の4分の3となります。（上限額100万円）</p> <p>※平成27年度以前に業務改善助成金の交付を受けている場合は、交付対象外となります。</p> |
|------|---|-----|---|

【申請・問い合わせ先】 北海道労働局雇用環境・均等部企画課
〒060-0808 札幌市北区北8条西2丁目 札幌第一合同庁舎9F 電話011-788-7874

業 界 の う ご き

▶ 札幌支部が移転

札幌支部（岸 昌洋支部長）は、9月20日、下記に移転した。

〔新住所〕 〒062-0003 札幌市豊平区美園3条5丁目1番15号 原ビル4F
電話011-867-9305 FAX011-867-9306

▶ 大丸藤井(株)と日藤(株)が合併し大丸(株)

大丸藤井日藤ホールディングス株式会社は、10月1日、大丸藤井株式会社と日藤株式会社を合併し、大丸株式会社（藤井敬一社長）とした。

〔本社所在地〕 〒060-8692 札幌市白石区菊水3条1丁目8番2号